

和歌山電鐵平成23年度決算

運輸収入は2%の減少、赤字は続いています

輸送人員はほぼ前年並み

開業から丸6年が過ぎた和歌山電鐵は、23年度決算を発表しました、これによると、定期外については、東日本大震災・紀伊半島大水害による観光客の減少や補助制度の終了などで新たなお客様を呼び込むための大規模な投資が行えなかったこと等により、対前年比▲4.8%となりました。

定期については、沿線の一部学校の定員増加等により通学定期は+5.6%、通勤定期はほぼ前年並みの+1.0%となりました。

この結果、定期外・定期の合計では+0.5%増加の218万2千人になりました。

運輸収入は2%の減、経常赤字は増加

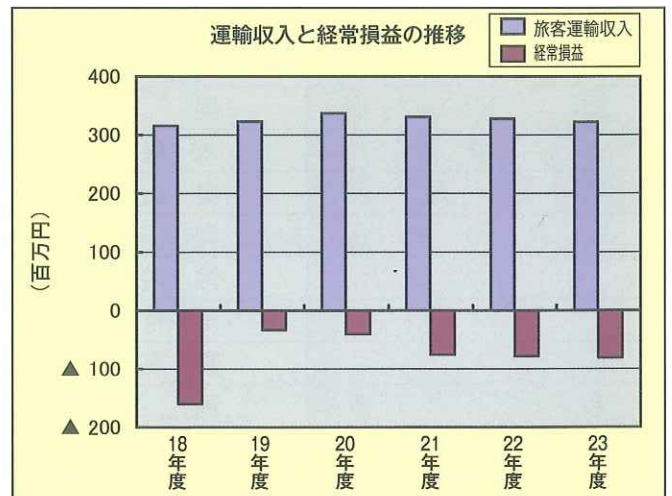
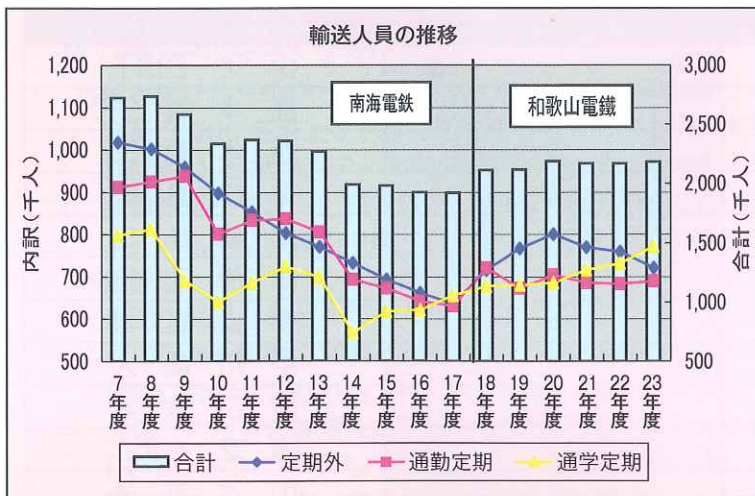
運輸収入は、定期外の減少が響き、前年度比2.0%の減少となりました。

運輸収入以外の収益については、グッズ販売が一昨年の貴志駅リニューアルの反動減で2割の減少となったほか、「たまカフェ」事業は紀の川市・和歌山県のご支援のもとで営業努力を続けています。

いっぽう経費については、当然節減に努めているものの、近年の老朽化設備への投資（1500Vへの昇圧等）に併う減価償却費の増加や、たまカフェ等ふるさと雇用事業への対応により、さらなる削減は難しい状態となっています。

経営損益は8,100万円の赤字

この結果、経営損益は8,100万円の赤字（対前年比300万円の増）となり、かろうじて開業2年目以降の5年連続で和歌山市・紀の川市による運営補助金（上限8,200万円）の範囲に抑えることができましたが、依然として厳しい経営状態が続いています。



チャレンジ 250万

あと4回多く乗って
黒字にしよう





初心に戻り『乗って！残そう！貴志川線』

貴志川線の未来を“つくる”会

代表 濱口 晃 夫

東日本大震災から一年余り、被災地の復興は地域の方々の懸命の努力、及び全国からのご支援もあって着々と進んでいるように思われ、日本人の勤勉さ力強さを感じています。

しかし一方、細部まで目を向けてみるとなかなか手の届かないところもあり、本当の意味での復興までにまだまだ多くの時間と費用が掛かるのではないかと心配です。

我々の課題である貴志川線の状況について見つめてみますと、和歌山電鐵貴志川線として走り出してから6年余り、乗客数は南海として最終年平成17年は192.2万人でしたが、23年度は218.2万人まで増加してきています。しかし、残念ながら黒字とはならず赤字が続いています。各種イベントの実施等利用促進や知名度アップ、またグッズの開発と販売などの活動により運営面は比較的順調かと思われませんが、設備更新など安全安心のための費用が多く必要で有り、収支面で厳しい状況です。

行政からの支援は一応10年との期限で受けており、それ以降の支援については決まっていません。10年の期限まで後4年足らず、廃線とされないためにより緊密な取り組みが求められています。

我々地域住民、利用者として出来ること、しなければならないことは、初心に戻り「乗って！残そう！貴志川線」です。永続させるための一番の近道は利用促進、そのための色々なイベントも必要であり、今後も取り組んでいかなければなりません。平素利用されている沿線住民の方々が今以上に貴志川線に乗っていただくことが一番です。黒字化するためには乗客数を今より30万人増、250万人とする必要があります。貴志川線沿線の住民約8万人の方々が、今以上に年間2往復以上、4回以上乗っていただくこと達成できる計算になります。これは最低数ですから、これ以上の乗車をお願いいたします。

2012年度（平成24年）役員名簿

（平成24年4月14日第1回定例会確認）

役 職	名 前	役 職	名 前
代 表	濱 口 晃 夫	幹 事	山 下 日 出 子
副 代 表	奥 重 視	//	梶 本 祥 子
//	木 村 幹 生	//	西 本 哲 夫
事 務 局 長	奥 山 和 生	//	川 口 昌 宏
事 務 局 次 長	奥 重 貴	//	稲 置 佳 広
//	堀 内 健 作	//	織 田 元 宏
//	川 村 記 義	//	森 山 正 雄
//	富 高 彰	//	中 川 隆 人
会 計 幹 事	堀 瑛	//	藤 田 宗 治
//	杉 林 雅 義	//	内 芝 あずさ
//	中 西 由 子	//	山 本 滋 子
//	小 山 裕 史	//	住 山 裕 美
//	吉 本 昌 純	監 査	山 本 好 延
//	岩 垣 勉	//	中 西 充 子



貴志川線の未来を” つくる ” 会

平成 24 年度 活動計画 (2012 年)

～ 黒字化へ、乗車人員 250 万人実現に向けて活動を強めます ～

貴志川線はまだ赤字状態です。行政からの赤字補填は残り 4 年となりました。再び廃線の危機を迎えないために、黒字化による永続を目指して、利用促進と地域住民への呼びかけの活動を強めます。

I. 基本方針

和歌山電鐵、行政、関係諸団体と連携して、地域の財産貴志川線を永続し発展させるために、黒字化へ乗車人員 250 万人の実現を目指して、まちづくりの活動と結び力を合わせて取り組みます。

II. 貴志川線の現状と課題

貴志川線はまだ赤字状態です。新会社発足以降南海電鉄時代に比べ改善されてきましたが、毎年赤字経営が続く状況は続いています。23 年度決算においても 8,100 万円の赤字が出ています。

地方路線再生のモデルと言われ大丈夫との雰囲気がありますが、実態は毎年赤字であり行政からの補填は 10 年間という期限があり、残り 4 年で黒字化しなければ再び廃線の危機を迎えることとなります。

黒字化には乗車人員 250 万人が必要です。23 年度で 218 万 2 千人ですから 30 万人不足しています。観光客誘致も重要ですが、何よりも沿線住民の利用を増やすことが黒字化の鍵を握っています。利用者の増加へ行政や関係団体、地域と連携して積極的な取り組みを行う事が求められています。

III. 重点目標

- (1) 貴志川線の黒字化へ乗車人員 250 万人の実現を目指して積極的に活動を行います
 - ① 利用者を 30 万人増やすため、「チャレンジ 250 万人」キャンペーンを開始します
 - ② 「あと 4 回多く乗って黒字にしよう」をキャンペーンのキャッチコピーとして PR に取り組みます
 - ③ 完全な上下分離方式による経営実現を目指して、和歌山電鐵と協働して取り組みます
- (2) 快適・便利で利用しやすい貴志川線を目指します
 - ① 伊太祈曽～貴志間の増発を実現するため、大池遊園駅の対向設備の復活を引き続き目指します
 - ② 日前宮～神前駅間に新駅の設置を引き続き目指します
 - ③ 駅設備、ダイヤ、サービス品質の向上などの要望を集約し、改善を求めています

IV. 具体的な取り組み

- (1) 地域と結び住民の声と想いを結集して活動できる組織づくりに取り組みます
 - ① 会員 3,000 名以上を目標に入会の呼びかけを積極的に行います
 - ② 「定例会」とボランティアスタッフへの参加を積極的に呼びかけます
 - ③ 会員限定イベントの開催など、会員特典の実現に取り組みます
 - ④ ホームページ、貴志川線ニュース、会報などを通じ広報、宣伝、啓発活動に取り組みます
- (2) 利用促進と“日本一心ゆたかなローカル線”づくりに取り組みます
 - ① 沿線住民に「あと 4 回多く乗って黒字にしよう」の呼びかけを積極的に展開します
 - ② 利用促進へ和歌山電鐵と協働、協力して各種イベントを開催します
 - ③ 「第 6 回貴志川線祭り」を「チャレンジ 250 万キャンペーン」のキックオフイベントとして開催します
 - ④ 会員、利用者の要望を集約し、和歌山電鐵や貴志川線運営委員会に反映します
 - ⑤ 「マイルール、マイステーション」へ各駅の美化活動と駅長配置に取り組みます
 - ⑥ 観光客やリピーター誘致へ、「利用マナー向上」と「手を振る運動」に取り組みます
 - ⑦ 「さくら街道 貴志川線」に引き続き取り組み、花のあふれる沿線作りに取り組みます
- (3) 地方交通の存続と活性化へ学習・政策活動に取り組みます
 - ① 学習会、シンポジウム、ワークショップなどの開催と、参加に取り組みます
 - ② 地方鉄道を守り、発展させる活動を行っている諸団体との交流、協働に取り組みます
 - ③ 「交通基本法」の早期制定を求めるとともに、政策学習と資料の収集、活用に取り組みます



▲ '11/7/1~3
和歌山駅9番ホームで会費受付



▲ '11/7/21~8/31
「貴志川線夏休み子どもスタンプラリー」大好評開催



▲ '11/10・11
「わかやま商工まつり」県農業試験場



▲ '11/12/18
クリスマス電車運転、子どもたちにプレゼント



▲ '11/8/31
神戸電鉄粟生線沿線住民との交流会



▲ '11/10/23
鉄道記念日「貴志川線フェスティバル」に2,000人がご来場



▲ '11/12/4
「第6回駅ペンキ塗り大会」吉礼駅ホーム上屋、トイレが綺麗になりました

和歌山電鐵と「つくる会」-日本鉄道賞を受賞

23年度の日本鉄道賞表彰に和歌山電鐵と和歌山線の未来をつくる会は「表彰選考委員会 ローカル線客招きアイデア賞」を受賞し、10月14日東京で表彰式が行われ、和歌山電鐵小嶋社長とつくる会濱口代表が出席して表彰を受けました。

鉄道賞は、10月14日の「鉄道の日」にちなみ、鉄道事業の発展及び利用者の利便向上等に貢献した鉄道事業者や団体を表彰する制度。

受賞理由は、平成18年4月に南海電鐵から引き継いだ貴志川線について、継続的に地元住民や自治体、学校、商工会等とともに利用促進策について検討し、動物駅長の先駆けとなる「たま駅長」の任命や、「おもちゃ電車」を始めとする地域のシンボルとなる車両を多数導入、また年間70回にも及ぶ多彩なイベントの実施など、地域と一体となり、さまざまなアイデアにより集客に努め、鉄道運営を続けていることが評価されたものです。



「貴志川線運営委員会」をご存知ですか？

和歌山電鐵が貴志川線の運行を引き受ける条件の一つが運営委員会の設置でした。

貴志川線の永続的運営を基本理念とし、地域行政及び各種団体が連携、貴志川線の利用促進と沿線のまちづくりの推進を図ることを目的に和歌山電鐵の正式機関の位置づけで設置されています。

(構成メンバー)

和歌山県・和歌山市・紀の川市の各交通政策担当課、和歌山商工会議所、紀の川市商工会、和歌山東高校、貴志川高校、貴志川線の未来を「つくる」会、和歌山交通まちづくりを進める会、和歌山電鐵。

それぞれの代表者が毎月第3木曜日に集まり会議を行っています。上記目的に沿って沿線住民の意見の吸収、経営状況や安全対策の報告、イベントの了承も含めて意見交換、情報交換を行い、まさに「官民一体」となって住民の熱烈な支援のもと、貴志川線のさらなる発展を目指しています。

つくる会活動日誌 (抄)

2011年 (平成23年)

- 6月 11土 23年度第8回役員会 以降毎週2回年度内計25回開催
- 16木 23年度第3回貴志川線運営委員会 以降毎月1回12回開催
- 25土 23年度会費納入依頼文書・会報発送 (スタッフ45名参加)
- 7月 1金 ~3日 和歌山駅9番ホームで会費受付
- 15金 長野以北在来線対策協議会視察・交流
- 21日 たま駅夏帽戴帽式・風鈴贈呈式イベント
- 貴志川線夏休み子どもスタンプラリー開始 (8月31日まで)
- 30日 紀の川市西貴志コミュニティセンター夏祭りグッズ販売
- 8月 4木 和歌山県高校生セミナー講演 (代表)
- 5金 島根県地域振興部交通対策視察・交流
- 13土 貴志駅多客期応援、13、14、15各日 (延べ15名参加)
- 20土 紀の川市貴志川町長山団地盆踊り大会グッズ販売
- 21日 神戸電鉄粟生線沿線住民との交流会 (粟生線7、つくる会15)
- 9月 10土 富山県呉西地区公共交通再生協議会シンポジウム基調講演
- 17土 和歌山生協病院30周年記念祭りグッズ販売
- 18日 あったらいいなこんな電車子ども絵画展募集開始 (10月18日まで)
- 24土 和歌山市四季の郷公園「はき祭り」ミニ電車運転、グッズ販売
- 10月 2土 紀の川市西貴志コミセン祭り グッズ販売
- 8土 ~9日 わかやま商工まつり ミニ電車運転、グッズ販売
- 14金 日本鉄道賞 表彰式 (選考委員会特別受賞)
- 15土 「わかやまくみあい祭り」ミニ電車運転、グッズ販売
- 23日 鉄道の日記念 貴志川線電車フェスティバル 来場者2,000名
- 29土 「第32回労働者福祉祭り」ミニ電車運転、グッズ販売
- 31月 会費納入再要請文書発送 (730通)
- 11月 12土 県農業試験場 ふれあいデー ミニ電車運転、グッズ販売
- 13日 沿線新設戸建団地 入会呼びかけ文書ポスティング (約200戸)
- 20日 「紀の川市産業まつり」ミニ電車運転、グッズ販売
- 12月 4日 第6回駅ペンキ塗り大会 吉礼駅 (26名参加)
- 17土 「クリスマス電車」プレゼント袋つめ作業 (12名参加)
- 18日 「クリスマス電車」応援 (15名参加)
- 25金 迎春準備門松製作、伊太祈曽駅に設置

2012年 (平成24年)

- 1月 18水 伊太祈曽駅花壇整備・あじさい植栽
- 28土 駅からウォーク (和歌山電鐵主催) パート1、応援
- 2月 5日 じゃがいも苗植え付け作業 (全体約50名、つくる会12名)
- 10金 民主党近畿ブロック地方自治体議員フォーラム視察・交流
- 18土 ニタマ伊太祈曽駅長就任式
- 駅からウォーク (和歌山電鐵主催) パート2、応援
- 25土 四季の郷子どもマラソン実行委員会
- 3月 3土 地域情報ステーション「たまぶらざ 貴志川」オープンイベント
- 7水 吉礼駅に花プランター設置 (山東小学校子どもセンター)
- 12月 「いちご電車でいちご狩り」応援 (5名参加)
- 17土 和歌山ながフェア (大阪・鶴見) 展示、グッズ販売 (6名)
- 駅からウォーク (和歌山電鐵主催) パート3、応援
- 20火 四季の郷子どもマラソン (出走167名) (スタッフとして12名)
- 4月 5水 「第7回タケノコ掘り体験」抽選会 (3回開催応募者1,058名)
- 7土 「桃山まつり」ミニ電車運転、グッズ販売 (5名参加)
- 15日 「第7回貴志川線に乗ってたけのこ掘り体験」①(105名)
- 鳥取県・若桜鉄道沿線活性化協議会視察
- 22日 「第7回貴志川線に乗ってたけのこ掘り体験」②(45名) 雨天
- 28土 「第7回貴志川線に乗ってたけのこ掘り体験」③(93名)
- 和歌山県中央メーデー ミニ電車運転、グッズ販売
- 29日 じゃがいも掘り大会準備 草引き (10名参加)
- たま駅長誕生日記念感謝イベント (伊太祈曽駅構内) 応援9名
- 30月 ~5/3・4・5 貴志駅GW多客期応援 (延べ24名)
- 5月 13日 つくる会会報編集委員会 (7名)
- 30日 「第5回貴志川線に乗ってじゃがいも掘り」抽選会 (応募者996名)
- 6月 10日 「第5回貴志川線に乗ってじゃがいも掘り」(400名参加)
- 23土 24年度会費納入依頼文書・会報発送作業



「場」[「労福協まつり」]など各地のイベントにミニ電車運転、グッズ販売で参加



▲ '12/6/10
「第5回貴志川線に乗ってじゃがいも掘り」会員限定の部も開催



▲ '12/3/20
「四季の郷子どもマラソン」
157名元気に走る

2/4/15
第7回貴志川線に乗って
「たけのこ掘り」3日間開
催 243名参加

“つくる会” 定例会に参加しませんか!!

“つくる会”の定例会は毎月第2と第4土曜日(19時~21時頃まで)伊太祈曽駅会議室で開催されています。貴志川線のこれからの興味関心のあるかたであれば、誰でも参加でき、意見やアイデアを述べる事ができます。5月12日(土)の定例会では、電鐵側出席者と“つくる会”メンバーでタケノコ掘りイベントやゴールデンウィーク期間における貴志駅支援活動の反省や課題の検討が議論されました。また6月10日実施予定の「電車に乗ってじゃがいも掘り」イベントの準備と役割分担について協議されました。

このように“つくる会”の定例会は、貴志川線の確かな未来をつくるため、また和歌山電鐵の安全安心運行のサポーターの役割りを果たすための自由で民主的な協議の場です。どうぞ、あなたも気軽に参加されるようお願いしています。



和歌山電鐵株式会社

代表取締役専務 磯野省吾

行政の欠損補填が残り4年となりました。黒字化にむけて取り組みの強化が求められています。そこで磯野専務に貴志川線の現状と課題について寄稿をしていただきました。

平成18年4月1日、和歌山電鐵・貴志川線として運行以来、早6年目となりました。「日本一心ゆたかなローカル線」を目指して、「知ってもらおう」「乗ってもらおう」「住んでもらおう」を合言葉に努力を積み重ねてまいりました。

そして、何よりも地域の方々の多大なご協力、ご支援により、年間100回以上の多種多様なイベントや利用促進策に取り組み、また、いちご電車、おもちゃ電車、たま電車、貴志駅リニューアル等の投資も行ってきた結果、輸送人員も開業前の年間192万人から、23年度には13%増加し、218万人の方に利用されるようになりました。

しかし、鉄道部門のみの収支では、22年度以降は1億円以上の損失がでており、他の収入（たま駅長のグッズ等）によって、何とか沿線両市による運営補助の範囲内（年間8,200万円）に抑えています。近年は特に、路線・電路・車両等の設備の老朽化対策が待ったなしの状況で、設備更新のための投資および修繕費が多額となり、経営を圧迫してきています。

24年度以降、両市の運営補助の範囲内では、経常損失がカバーできない状況となりつつある、というのが厳しい現実です。

開業前の計画では、長年にわたる利用者の減少傾向を見込み、23年度に約13%の運賃値上げを予定しておりましたが、幸い皆様の厚いご支援により、値上げを回避できております。

しかしながら、今後も現行の運賃を維持していくためには、利用者を現在より15%上積みして年間250万人にするとともに、上下分離方式（線路等の施設を自治体が保有して維持更新を行う）について地元自治体や地域の方々と協議していかねばならないと考えております。

もちろん弊社としても、安全運転の遂行と接客レベルの向上を図り、お客様にとってより安全・安心な貴志川線を目指すとともに、利用促進のためのあらゆる施策を検討し、実行してまいり所存でございます。

地域の方々にとってより使いやすく、より便利と感じていただけるために知恵を絞るとともに、貴志川線の起源である、日前宮・竈山神社・伊太祁曾神社の三社への参詣鉄道という原点に立ち返り、地域の宝である神社の素晴らしさを全国に発信してまいります。

今後とも、皆様のご協力、ご支援を、何卒宜しくお願いいたします。

上下分離方式とは

極めて厳しい経営状態にある地方の公共交通の維持と自立を促すため、路線などの公共性の高いインフラ〔下部〕を行政など公的主体が整備し、企業性の高い列車運行〔上部〕を民間事業者が担うという方法。

これまでの日本では、かつての国鉄や市営地下鉄・バスのような「公設公営」か、民間事業者が全てを担う「民設民営」のいずれかが基本となっていたが、マイカー時代になり乗客の激減した地域の公共交通は赤字が当たり前となり、ビジネスモデルとしてすでに成り立たなくなっている。

この赤字補填を中心とする補助金でなんとか支えられてきた「民設民営」を再建するため、上記のように上部と下部を分離した「公設民営」として、鳥取県の若桜鉄道など全国各地で導入されはじめている。欧州など大半の先進諸国ではすでに一般的な運営方法である。

貴志川線が1,500Vに昇圧、主要な分岐器の更新終わる

老朽化が著しく更新が迫られていた既存の変電所3ヶ所（日前宮・伊太祁曾・甘露寺前）に代えて、新設の伊太祁曾1ヶ所に集約するとともに電車線の電圧を600Vから1,500Vに昇圧する工事が和歌山県・国の補助を受けて完了し、24年2月より供用を開始しました。これにより、維持管理等のランニングコストの軽減と、若干の時間短縮が可能となりました。

また同じく老朽化が顕著であった分岐器についても、伊太祁曾駅構内2基の更新工事を国・和歌山市・紀の川市の補助を受けて行い、日前宮駅・岡崎前駅とともに主要箇所が更新が完了しました。



伊太祁曾に新設された変電所

2011年度

貴志川線の未来をつくる会 会計決算報告

2011年4月1日～2012年3月31日

会費はこのように使わせていただきましたのでご報告いたします

皆様からお預かりした2011年度（平成23年度）会費の会計決算について、2012年4月28日開催した第2回定例会（役員会）において、承認いたしましたのでご報告いたします。

- 収入は、2011年度（平成23年度）会員2,233名の会費と、前年度繰越金および寄付金、和歌山電鐵グッズ販売手数料、グリーン・ツーリズム運動補助金、貴志川線祭り売上げ、預金利息等です。
- 会員数は、昨年比30名の微減となりましたが、皆様のご協力で作る会発足以来引き続き2,000名以上を確保することができ、収入総額は418万2,924円となりました。
- 支出は極力節減に取り組みました。事業費については、各イベント開催については和歌山電鐵と共催して国・県・市の各種補助金を活用することにより縮減することができたことなどにより、昨年比36万1,610円の減となり、次期繰越金を昨年比22万1,567円増で計上することができました。
- 東日本大震災義損金について、会員の総意として10万円と貴志川線祭り売上げ等計21万7,210円を日赤和歌山県支部に寄付しました。
- 繰越金の処理について、次年度繰越金147万9,900円は全額を次期一般会計に充当します。
- 「基金」および「特別会計」について
 - ①「貴志川線整備基金」について、行政の欠損補助が10年間の限定であり、貴志川線の施設、車両の老朽化が進んでいることからその対応に備えて2007年（平成19年）から積み立てているものです。
 - ②「ニュース和歌山25周年記念助成金」について、ニュース和歌山社様から2008年（平成20年）3月12日に寄贈いただいたものです。その用途を明らかにするため特別会計を設けて管理しています。

2011年度決算報告

〈収入の部〉

科 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	1,267,333	2010年度繰越金（会費預かり金9,000円含む）
会 費	2,233,000	2010年度会員 @1,000円×2,233名
雑 収 入	682,591	寄付金（103名様）、グッズ販売手数料、グリーンツーリズム補助金、貴志川線祭り売上、預金利息等
合 計	4,182,924	

〈支出の部〉

科 目	金 額	摘 要
通 信 費	452,022	会費納入案内・再要請郵送料金、年賀状、貴志川線祭り案内、各種印刷物郵送・メール便料金等
郵 便 振 込 料	165,000	会費振込料（つくる会負担）1,422名分（昨年会費及び寄付金振込含む）
事 業 費	1,410,413	貴志川線祭り等各種イベント開催経費、駅美化、3電車シール、イベントガイド作成、会費徴収諸費等
広 告 宣 伝 費	86,625	三社参りポスター、「がんばろう日本」横断幕、のぼり用ポール
事 務 費	232,484	役員会会場・倉庫使用料、宛名シール、各種文具事務用品、コピー代、HP費用等
交 通 費	138,270	イベント42件、スタッフ延べ147名の交通費実費
義 損 金	217,210	東日本大震災義損金（つくる会10万、貴志川線祭り売上全額10万7,210、西貴志夏祭り1万）
預 かり 会 費	1,000	本年度会費に1名分充当
合 計	2,703,024	

〈決算内容〉

収 入	4,182,924	
支 出	2,703,024	
次年度繰越金	1,479,900	(H24～H30年度会費預かり金2名分8,000円含む)

〈繰越金内訳〉

普 通 預 金	1,348,594	(紀陽銀行国体道路支店)
現 金	131,306	
合 計	1,479,900	

〈基金内訳〉

定 期 預 金	2,514,649	貴志川線整備基金(紀陽銀行国体道路支店)
---------	-----------	----------------------

〈特別会計内訳〉

普 通 預 金	750,876	ニュース和歌山25周年記念助成金(ゆうちょ銀行和歌山友田郵便局)
---------	---------	----------------------------------

会計監査報告

2012年4月25日

貴志川線の未来をつくる会
代表 瀧口晃夫 殿

監 査 山本好延
監 査 中西亮子

貴志川線の未来をつくる会 会則第6条第8項にもとづき2011年度（平成23年度）会計監査を実施したので、下記により報告します。

記

1. 監査実施日 2012年4月25日
2. 監査場所 貴志川線の未来をつくる会事務局
3. 監査対象 2011年度会計
4. 監査期間 2011年4月1日～2012年3月31日
5. 監査の結果 帳簿・証拠書類等が、正確かつ適正に処理されていることを認めましたので報告いたします。

以上

貴志川線に皆様のご理解を 「貴志川線の未来を“つくる”会」へのご入会をお願いします

世界的に(?)有名になった“貴志川線”ではありますが…。

平成15年11月、南海電鉄が貴志川線の廃線を打ち出したとき、沿線住民はパニックに陥りました。電車は空気や水と同じ様に“あって当たり前”でしたから、電車のありがたさを意識していなかったのです。

廃線の危機に直面した貴志川線が、全国的に、世界的に有名になったのは、各界、各方面の実に大勢の人々の熱い思いと、必死の行動でした。

行政の欠損補填は10年間ですからあと4年しかありません。永續のために必要なのは、まさに大勢の人々の「絶対に電車は必要」という熱い思いです。

現在、“つくる”会の会員数は、2,233人(24.331)です。存続活動中は6,400人の方々が会員として応援してくださいました。

現在、いちご電車、おもちゃ電車、たま電車が子どもたちの歓声を乗せて走り、ユニークな貴志駅が人目を引いています。大半の方々は「貴志川線は儲かっているから、もう応援をしなくてもやって行けるだろう」と思われています。

しかし実際はその反対です。真夜中に行われる線路敷きの改修等、安全と快適さの維持に多大な費用がかかっているのです。貴志川線の実情をご理解いただき、皆様方の今後ますますのご支援をお願いしなければなりません。

通勤・通学・通院・買い物・旅行・交通渋滞の緩和・二酸化炭素の減少…。新聞や本を読みながら・おしゃべりしながら・いねむりしながら・飲酒後の足として…。

そして何と言っても貴志川線は“街づくり”の主役です。さらに観光の目玉です。世界の都市は電車復活に向っています。こんな便利な貴志川線を永遠に残しましょう。

貴志川線の未来を
つくる会

24年度 新規 継続 入会募集中です

引き続き貴志川線の発展へ活動を続けてまいります。24年度会費の納入につきましてご協力いただきますようお願い申し上げます。

■会費 年額1,000円(期間:加入日に関わらず2013年3月31日まで)

■納入方法 郵便局振込み 口座番号:00960-1-277944

〔事務局〕和歌山市伊太祈曾558 伊太祈曾神社内(9:00~17:00)

和歌山駅9番ホームで受付 6月29日(金)、30日(土)、7月1日(日)15:00~19:30

ひろば

イベント参加者の感想をご紹介します。



主人と2人で「貴志川線に乗ってタケノコ掘り体験」に参加させていただきました。初めてのタケノコ掘り、とても楽しかったです。トンガで掘るのも初めてで大変でした、初めは説明して下さった様にはなかなかうまく掘れません、泥まみれになりながら掘りました、そのうちに慣れて掘れる様になってきました。

お陰様で沢山掘れて近所へもお裾分け出来ました、ありがとうございました。来年もイベントに参加したいです。タケノコご飯、タケノコの佃煮、タケノコの木の芽あえ、どれもすごく柔らかくて美味しかったです。

和歌山電鉄貴志川線のご発展をお祈り申し上げます。

南條きわ彥さん(和歌山市井戸)



和歌山電鉄主催「駅からウォーク&ハイキング」2、3回目に参加しました。2回目の「熊野古道沿いを歩く」は和佐の方から伊太祈曾方面に抜けるトンネルの手前の「熊野古道」の立て看板をもう何年も前から見かけ一度歩きたいと思い続けていた所でした。

出発の千旦駅から松下幸之助生誕地へは、この日とても冷たく雪が降ってきました、その中、語り部さんが詳しく説明して下さり感謝です。

立派な建物の中筋家にも初めて入りました。古道の矢田峠からの山東、生石山の眺めはすばらしく、昔の人は遠く熊野の地まで歩いたんだなあと思いを馳せました。

明王寺の丹生神社もこんな由緒ある立派なものがあつたのかと感激。四季の郷公園の竹の子ごはんはとても美味しく味付けされていてお昼に頂きました。

先日、平池に梅檀(せんだん)の花が咲いていると教えてくれる人があり見に行ってきました。松下幸之助生誕地にも確か実のついた木があつたのでは?、貴志川線花めぐり、木の实(大木)めぐり、も計画してくれたらなあとか、大旗山や孟子へも行ってみたいなと思っている今日この頃です。もちろん3回目の大池、大谷峠、足守さんのコースも少し雨の中でしたけど良かったです。

谷口卓代さん(和歌山市吉礼)